

科 目	単位（時間）	担当者	授業時期
哲 学	1 単位 (15 時間)	小谷 弥生 (大学教授)	4 年後期

【学習目標】

この授業では、哲学の根本にある「問う力」「考える力」を育み、身につけることを目標としています。私たちは様々な場面において、様々な人・物・事と出会い、ときに様々な疑問に直面します。哲学はその「疑問」の本質を見つめ、自分なりの「問い」として主題を見出す営為でもあります。そして「問い」とは、自分を理解することだけでなく、その問いの対象を理解するためでもあります。とりわけ看護を学ぶ皆さんにとって重要な、相手が生きている「世界」を想像すること、その想いを「理解する」こと、そして相手の想いを「聴き取り」自分の想いを「伝える」こと。書きとめられた「他者の声」に耳を傾け、聴き取ることを通して、「語り」「聴く」という行為の哲学、実践の哲学という観点より、学び、そして身につけることを目標としています。

【授業の進め方】

- 1 テキストを中心に、その場で共に読むことを通して「看護の語り」を経験する。
- 2 その日のテーマに即して感じたこと・考えたことをレスポンスシートに記入する。

【授業スケジュール】

- 1 イントロダクション：「哲学とは何か」—— 看護と哲学の接点
- 2 テキスト精読①
- 3 テキスト精読②
- 4 テキスト精読③
- 5 テキスト精読④
- 6 テキスト精読⑤
- 7 総括：「哲学とは何か」—— 哲学と看護の接点
- 8 テスト（レポート試験）

【教科書】

- ・村上靖彦『摘便とお花見 看護の語りの現象学』（医学書院、2013年）

【評価方法】

- ①・②を総合的に評価する。
- ・① 平常点（レスポンスシートの記入・提出）
 - ・② 期末レポート（テスト）評価

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
教育学	1 単位 (30 時間)	小山 茂喜 (大学教授)	4 年全期

【学習目標】

自分が生涯学習者であることを認識するとともに、看護における教育的関わりについて理解する。また、教育の意義や目的、方法並びに現代的な課題等に焦点を当て、基本的な内容を理解し看護との関連について考察する。

【授業の進め方】

講義を中心に、議論やワークを通して、基本的・基礎的な教育に関する内容を理解していくと共に、現代社会が抱える諸課題について、SDGs の観点から、自らどのような行動をとっていかなければならないか探求的に学んでいく。

【授業スケジュール】

- 1 教育とは何か
- 2 教育の思考と歴史
- 3 教育の思想と歴史
- 4 教育の方法
- 5 教育の方法
- 6 学習理論と教育技術
- 7 カリキュラムとは
- 8 教育と評価
- 9 教育と評価
- 10 現代社会における課題教育・・・健康教育
- 11 現代社会における課題教育・・・健康教育
- 12 現代社会における課題教育・・・健康教育
- 13 現代社会における課題教育・・・ライフプランニング教育
- 14 現代社会における課題教育・・・人権教育
- 15 新しい学びに向けて

【教科書】

特に指定なし

【参考書】

特に指定なし

【評価方法】

毎回課すレポートを中心に、授業への参加度やまとめレポートをもとに総合的に評価する

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授 業 時 期
英 語 II	1 単 位 (30 時間)	藪田由己子 (短期大学教授)	4 年 前 期

【学習目標】

この授業では①病院現場に英語話者の患者が来た場合、対応がある程度できるようになること、②病院で必要な英語語彙を増やすことの2点を目標とする。

【授業の進め方】

1 ユニットずつテキストにそって学習をすすめる。ダイアログを聞き、関連した単語を学習した後は、ペアでロールプレイを行う。グループワークなど協働学習の形態で授業を進める。グループ内では積極的にコミュニケーションをとり、英語で多く発話することが求められる。教室内の指示は可能な範囲で英語で行う。

【授業スケジュール】

- 1 オリエンテーション
- 2 Unit 1 Hospital Department
- 3 Unit 2 Application Forms
- 4 Unit 3 Parts of the Body
- 5 Unit 4 Illnesses
- 6 Review Units 1 - 4
- 7 Unit 5 Daily Routine
- 8 Unit 6 Hospital Objects
- 9 Unit 7 Locations of Hospital Objects
- 10 Unit 8 Hospital Directions and Instructions
- 11 Review Units 5 - 8
- 12 Unit 10 Chatting with a Patient
- 13 Unit 11 Taking a Medical history
- 14 Unit 12 Hospital Procedure
- 15 Review Units 10 - 12

【教科書】 ホスピタル・イングリッシュ Vital Signs 南雲堂

【参考書】 特になし

【評価方法】 テスト (小テスト3回) 60%、平常点 (ロールプレイ、授業態度など) 40%

科 目	単位 (時間)	担 当 者	授業時期
生物学	1 単位 (15 時間)	坂口 雅彦 (大学准教授)	4 年前期

【学習目標】

医療看護現場で必要となる生物学的知識を総合的に学習する

【授業の進め方】

パワーポイント データー等及び配布資料を基に解説し、議論する

【授業スケジュール】

- 1 生物学として理科を学ぶ意義
- 2 生体を構成する物質 原子 分子 イオン結合 共有結合の基礎的理解
- 3 生体を構成する物質 1)糖、淡水化物 2)脂質 3)アミノ酸・タンパク質
4)ヌクレオチド・核酸
- 4 細胞の構造と機能 細胞小器官 浸透圧 ペプチド・タンパク質の生合成と分泌
- 5 人体を構成する組織・器官 内臓諸機関 血液中の成分 免疫系
- 6 人体を構成する組織・器官 神経系 脳と高次精神機能
- 7 発生・細胞分裂と遺伝・遺伝病
- 8 試験

【教科書】

なし (配布資料)

【参考書】

資料配布

【評価方法】

筆記試験とレポートの総合評価

科 目	単位 (時間)	担 当 者	授業時期
人間関係論 I	1 単位 (30 時間)	大川原 憲司 (臨床心理士)	4 年前期

【学習目標】

看護において、看護の対象である患者さんや患者家族にケアを提供する際にコミュニケーションは欠かせない重要な要素である。また、チーム医療として同僚や他職種間との良好な関係の構築と連携・共働はチーム医療の成否に繋がり、良質な医療の提供には必要不可欠である。看護におけるコミュニケーションの基礎や知識、技術を学び、実践に役立つコミュニケーション技術の習得を目的とする。

看護におけるコミュニケーション技術を「聴く」「伝える」「共感する」という3つの側面に分けて、それぞれのコミュニケーション技術の習得を目指す。さらに高度なコミュニケーションを必要とするカウンセリングにおける患者さんの内面の理解を深めるためのコミュニケーション技術についての理解を深める。

【授業の進め方】

【授業スケジュール】

- 1 総論 看護医療におけるコミュニケーションの必要性、コミュニケーションとは何か？
- 2 対人援助の専門家に求められる3つの能力／マインド・テクニック・スキルについて／演習<ジェスチャーによるコミュニケーション>
- 3 患者さんを尊重するとは？／言葉遣い・敬語・謙譲語／演習<言葉遣い>
- 4 聴き上手になるための技術1／表情・視線／質問／演習<質問技法>／ペーシング・ミラーリング／うなずき・相づち
- 5 聴き上手になるための技術2／メッセージの共有／要約技法／演習<患者さんの話を要約してみよう>／沈黙・間の臨床利用
- 6 聴き上手になるための技術3／傾聴／演習<GoサインとNo Goサイン>／意図的な感情表出／専門的な距離感とは
- 7 伝え上手になるための技術1／メラビアンの法則／伝える順序／5W1H／あいまい表現・具体的表現
- 8 伝え上手になるための技術2／声の大きさ・印象／情報処理プロセス／相手本位の思考
- 9 伝え上手になるための技術3／肯定的思考／ロジカルシンキング／説得と納得
- 10 共感上手になるための技術1／感受性／先入観・確証バイアス／思い込みの枠・コアビリーフ／演習<思い込み>
- 11 共感上手になるための技術2／同情／受容／共感的応答
- 12 共感上手になるための技術3／自己覚知／演習<自分について知る>／感情労働・共感疲労／リフレーミング
- 13 カウンセリングとは何か？／カウンセリングにおけるコミュニケーション
- 14 看護場面へのカウンセリングの応用／どうやって患者さんの内面を理解していくの？
- 15 試験

【教科書】

テキスト1：「看護コミュニケーション」篠崎恵美子他著 医学書院

【参考書】

【評価方法】

筆記試験